

ふれあい

さいせい



発行

済生会西条病院

2014年夏号 第63号

2014年8月6日発行

西条市朔日市269-1

TEL(0897)55-5100



西条・新居浜市境にある銚子の滝 撮影：医療秘書課 神原勝巳

ごあいさつ

院長 岡田 眞一

熱中症を予防しましょう

内科 伊藤 誠

光線過敏症について

院内クリニカルバス大会が行われました

ニューフェイス

愛ロードサポーターに認定されました

平成26年度いしづち苑夏祭り

作業療法士 塩崎 浩也

済生会西条特別養護老人
ホーム入所申込受付開始

生活相談員 青野 咲希

整形外科外来に「予診室」
が設置されました

医療秘書課

「院内トリアージ」を開始しました

平成26年度宇和島合同検診が実施されました

ごあいさつ

院長 岡田 眞一

院長
岡田 眞一

今年も暑い夏がやってきました。6～7月の早い時期から台風が日本列島に近づき、前線も影響して集中豪雨となり、各地に予期せぬ災害を引き起こしています。地震だけでなく、種々の災害に対して準備をしておく必要があります。

さて、今年4月に行われた消費増税と診療報酬改定は、病院の経営に大きな影響があります。消費税8%へのアップは高額な医療機器や診療材料、薬剤を購入しなければならない急性期病院にとって大きな負担となります。また今回の診療報酬改定は、団塊の世代が75歳以上となる2025（平成37）年に向けて、入院医療・外来医療を含めた医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実などについて取り組むと示されました。そして、現在36万床ある7：1看護体制のDPC病院のふりい落としが図られています。平均在院日数、一般病棟用の重症度、医療・看護必要度、在宅復帰率という3つの厳しい施設基準が設けられました。この基準が達成できないと10：1DPC病院あるいは他の病床の選択をしなければなりません。多くの困難がありますが、当院は今後も西条市の急性期病院として機能していく方針です。

2025年に向けた今回の改定について、日本の10年後の高齢化率は30.3%と予想されています。これは平成27年の愛媛県の高齢化率30.7%とほぼ同じです。日本の10年後の高齢化が愛媛県ではもう起こっています。10年20年後の西条市の高齢者数は、人口減少に伴い確実に減少していると予想します。人口構成に合わせて、地域にどのような機能の医療・介護施設がどのくらい必要なのかを考える時期がきました。

来年2月病院東側に、ユニット型個室100床の特別養護老人ホームを開所予定です。急性期医療を行う病院と老人保健施設いしづち苑、特別養護老人ホームの間で密な連携を行い、地域の医療・介護を守っていきたく思います。みなさまのご支援を宜しくお願い致します。

熱中症を予防しましょう

内科 伊藤 誠

海水浴、キャンプや夏祭りとおもしろいレジャーがたくさんあるこの時期、「部活動をしていた学生が熱中症で重体」、「高齢者が自宅で熱中症になった」などのニュースをよく耳にします。熱中症とは日射病や熱射病などの総称で「高温下での活動により、発汗機構や循環系に異常をきたして起こる病気であり、体温上昇、発汗停止とともに虚脱・けいれん・昏睡などを起こし、生命の危険を伴うこともある」とされ、症状によって以下のように分類されます。

I度：めまいや立ちくらみを自覚し、筋肉痛や足がつるなどの症状を認める。

II度：頭痛、腹痛、吐き気、嘔吐を認め、疲れやだるさといった全身倦怠感を自覚し、時に軽度の意識障害を認める。

III度：意識障害、昏睡、痙攣（けいれん）を認める。

● なぜ熱中症になるのでしょうか？

熱中症を引き起こす根底には、体温調節のメカニズムがあり、それには1. 皮膚表面から大気中に熱を放散する、2. 汗が蒸発するときに熱を奪うはたらき(気化熱)を利用する2つがあります。気温、湿度が低ければ、体温調節のメカニズムはうまく作動します。しかし、日本の真夏日のような高温多湿では、空気中への熱の放出が難しく、気化熱を利用することも難しくなります。こうして体温調整機能が破綻するため、室内で過ごしていても冷房機器をうまく活用しなければ発症する可能性があります。

● 脱水について

体から水分が失われると、血液量が減少するため、集中力が低下し、食欲もなくなり、同時に電解質（塩分）が失われると、脚がつったり、しびれや脱力を自覚します。高齢者の場合もともと体液量が少ないため、少しの脱水でも重篤となります。加えて口の渇きを感じにくく、夜間に何度もトイレに行くことを嫌ったり、介護者に気を使うため、自ら水分摂取量を制限してしまうような心理的要素や利尿薬の内服などから脱水になりやすい状態にあります。脱水の程度は体重で評価することができるため、高齢者は特に毎日の体重を測定し、水分摂取量を調節することをお勧めします。**熱中症の予防方法は、こまめな水分補給、室温の管理、無理な運動をさけることです。**

● もし熱中症になったら

涼しく風通しの良い場所へ移動し、体を冷やし、水分、塩分、糖분을補給しましょう。その際ポカリスエットやアクエリアスなどのスポーツ飲料あるいは薬局や病院の売店にある経口補水液（OS-1）が役立ちます。しかし人工透析を行っている患者さんや心臓病、糖尿病の患者さんはこれらを多く摂取することで別の症状が出現する可能性があるため速やかに病院を受診してください。

体を冷やす方法には1. 脇の下、首、足の付け根を保冷剤、氷、冷たいタオルなどで冷やす方法、2. 霧吹きで体全体を軽く濡らし扇風機の風を当てる方法があります。冷やしている途中で体が震える場合や手足の先だけを冷やす方法は熱の放散を遅らせるため注意が必要です。

II度の場合、I度の治療を行いつつすぐに病院を受診する必要があります。III度の場合はすぐに救急車を呼んでください。以上のことに注意して熱中症を予防しましょう。

光線過敏症について

光線過敏症とは日光アレルギーとも呼ばれ日光によって引き起こされます。健康な人では問題のない日光の量で皮膚が赤くなる、ぶつぶつができる、水膨れができる、かゆみが生じるなどの症状がでることがあります。お薬による光線過敏症には2つの種類があります。

- ①塗り薬や貼り薬などの外用薬を用いた部分に日光が当たってかぶれが起こります。外用薬を使用していた部分を中心にかぶれの症状がでるのが特徴です
- ②内服薬を服用後、日光に当たった皮膚に発疹ができることがあります。

<光線過敏症の対策>

- ①塗り薬は塗布の際に手にお薬が付着します。使用後は手をよく洗うようにしてください。
- ②外出時、塗布した部分に日光があたらないように衣服やサポーターなどを着用してください。少なくとも4週間は日光があたらないような対策が必要です。

原因の分からない湿疹やかゆみなどの症状が現れた場合は早めに受診することが大切です。

院内クリニカルパス大会が行われました

5月17日に第13回院内クリニカルパス大会が行われました。クリニカルパスとは、ある病気の治療や検査に対して「標準化」された患者さんのスケジュールを表にまとめたもので、治療や検査ごとに1つずつ作られています。クリニカルパスには「医療者用」と「患者用」があり、検査や処置、食事や入浴の予定など入院中のスケジュールが書かれています。



クリニカルパスを使用すると、医学的根拠に基づいた検査や処置、治療、看護ケアを一定の質に保つことができます。また患者さんは治療内容を十分理解した上で、より適切な医療を受けることができます。

今回は眼科白内障手術のクリニカルパスを、医師、看護師、事務職員や看護助手など全ての職種が集まって、患者さんによりわかりやすいものに改良するために話し合いました。入院中は一人の患者さんにさまざまな職種のスタッフが関わることとなります。他の職種の携わっている分野について知ることができました。また直接このパスに関わることのない職員たちも「この表記ではわかりにくい」「この時間は何をしたらいいのか」など患者さんの目線で意見を出し合うことができました。参加者全員で患者さんが入院生活を不安なく過せるように考えながら新しいクリニカルパスが完成しました。

クリニカルパスを目にする機会がありましたら「いろんなスタッフが協力して一人の患者さんの治療に関わっているのだな」と思い出してみてください。

愛ロードサポーターに認定されました

毎月第3土曜日に実施している清掃活動について、愛媛県から『愛ロードサポーター』として認定されました。

愛ロードサポーター事業とは、県管理道路の一定区間について、ボランティアでゴミ拾い、除草などを行う団体に対し、県及び市町がボランティア保険の加入や作業用具の貸与などの支援を行う事業です。住民と行政が協力して、地域にふさわしい快適で美しい道路環境づくりを推進することなどを目的としています。

清掃活動は壬生川新居浜野田線のドリーマー葬祭館交差点付近から市塚交差点付近で行っています。今後、区間内に団体名を記した表示板が設置される予定です。清掃活動は私たちが地域に貢献できる身近な活動です。今後も安全に十分注意して清掃活動を行います。



平成26年度 いしづち苑夏祭り

いしづち苑 作業療法士
塩崎 浩也

さる7月26日(土)に、いしづち苑夏祭りを開催しました。日中は真夏の太陽がぐんぐんと気温を上げ、日が傾いても蒸し暑い中、午後6時に常光苑長のあいさつにより開会となりました。

オープニングは、昨年に引き続き華やかな衣装を身にまとった西条祭彩華の華麗なよさこい踊りで幕を明け、続いて風の楽団による心安らぐ演奏、GO!GO!Jam Dance Clubによる若さあふれるキッズダンス、最後は道前太鼓による勇壮な太鼓演奏と様々なパフォーマンスが披露され、夏祭りを盛り上げて頂きました。

今年は、お年寄りから子供まで三世代にわたって楽しんでもらえるよう「三世代交流」をテーマに、昨年までの「サマーフェスティバル」から、より親しみやすい「夏祭り」に名称を変更しました。夏祭りに欠かせない「縁日」では射的やヨーヨー釣り、金魚すくいなど、誰もがやったことのある露店を用意し、子供よりもお父さんが熱中する場面も見られました。また、「なつかしの展示」では昔の看板、ヒーロー、黒電話、ファミコン、ビックリマンシールなど各世代の懐かしい物を展示し、展示物を手に子供とおじいちゃんが談笑している声も聞こえてきました。「うちわ作り」では、その場で撮った写真でオリジナルうちわが作ることが出来、三世代で笑顔で写ったうちわを記念に作った家族さんもいました。

地域の方々、利用者家族の方々を対象に、西条病院からは無料低額診療事業の広報活動、来年2月開設予定の特別養護老人ホームからは、入所申込み相談、いしづち苑からは介護相談のブースを設け、済生会西条グループ全体の医療・福祉・介護の取り組みをアピール出来たのではないかと思います。

幸いにも天候にも恵まれ、昨年よりも多い来場者数となり、バザーも大盛況で早々に完売するなど、嬉しい反面、少し残念な部分もありましたが、猛暑の中、体調不良者を出すこともなく、夏祭りを無事に終えることが出来ました。

最後に、遅くまで片づけを手伝って頂いた、当苑・病院・特養の職員の皆さま、ありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

いしづち苑及び西条病院の職員の皆さん、来年の夏祭りも盛大に盛り上げましょう！！



華麗な舞の西条祭彩華
(よさこい踊り)



元気あふれる
GO!GO!Jam Dance Club



ヨーヨー釣り、スーパーボールすくい



大好評のうちわ作りコーナー

済生会西条特別養護老人ホーム入所申込受付開始

生活相談員 青野 咲 希

来年2月の開所に向けて今年6月から済生会西条特別養護老人ホーム入所申込受付を開始しました。特別養護老人ホーム（以下、特養）とは、介護保険制度の要介護認定を受けた方で在宅での生活が困難になった方が入所できる施設です。

当施設では、入所者が家庭的な雰囲気での生活を送れるよう、専門職員が日常生活をサポートいたします。平成27年4月からは地域医療・介護総合確保推進法施



行によって入所対象者は要介護3以上の方に限定されます。要介護2以下の方はデイサービスやショートステイサービスで在宅生活の継続を支援します。

現在、生活相談員2名が入所を希望されている方のご家族と面談をさせていただき、申込書だけでは伝わらない家庭の状況を伺っています。

特養について不明な点がございましたら、生活相談員へお気軽にお問い合わせください。

整形外科外来に「予診室」が設置されました

医療秘書課

なさんのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

5月から整形外科外来に「予診室」が設置されました。予診室では初診の患者の診察前に、現在の症状や過去に治療をうけたことがある病気、飲んでいるお薬やアレルギーなどについて医療秘書課の職員が詳しく聞き取りをさせていただいています。従来は医師が行っていた予診を医療秘書課職員が行うことで、診察までの待ち時間を少なくし、充実した医療を提供できるようになります。

なお、予診を受けられる際には、正確な情報提供をお願いします。飲んでいるお薬については「お薬手帳」を持参してください。み



平成26年度宇和海合同検診が実施されました

5月と7月に宇和海合同検診が行われました。今年から済生丸が新しく四世号となり、内装や医療機器なども更新されました。船内にエレベーターがついて、お年寄りや体の不自由な方が階段を使わなくてすむように配慮されています。

一次の合同検診では、採血や胃の透視などの検査が主な業務となり、二次の合同検診では、医師による内科・整形外科・小児科・外科（乳腺）の診察を行っています。二次検診では、台風8号の接近もあり1日だけとなりましたが、スタッフをはじめ研修医の先生方や愛媛大学の医学生も熱心に検診に取り組んでおりました。

各島々での検診時には、島民の皆さ

んとコミュニケーションをとることができ、明るい雰囲気の中で行うことができ充実した合同検診となりました。来年は天候の心配なく検診ができるように願っています。



「院内トリアージ」を開始しました

当院では、夜間、休日または深夜において救急外来を受診される患者さんに対して、平成26年7月から「院内トリアージ」を開始しました。

★院内トリアージとは

「院内トリアージ」とは、救急外来を受診した患者さんに対し、看護師が速やかに状態を評価し、緊急度・重症度に応じて診察の優先順位をつける仕組みです。

★院内トリアージにおける看護師の役割について

救急外来の看護師は、限られた時間と少ない情報の中で、患者さんの状態を適切に判断する能力や多くの病態知識が求められます。患者さん一人一人の状態に応じた対応を的確に行い、安心かつ安全に診療ができるよう役割を果たします。

★患者さんへのお願い「診察の順番が前後することもあります。」

夜間や休日の救急外来は非常に混雑します。救急外来は、通常の時間帯とは違い、診療に携わることができる医師や看護師などの人数が限られるため、一度に多くの患者さんを診察することや、常に専門医が診察することは困難です。効率的な治療を行い、緊急度・重症度の高い患者さんの重篤化を予防するためにも、一定の基準を設け、診察の優先順位を判断する院内トリアージを実施することは重要です。

救急外来を受診された時、必ずしも受付の順番通りの診察とはならず、順番が前後することもありますので、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

「院内トリアージ実施料(100点)」として、3割負担の方は300円、1割負担の方は100円が診療費に含まれております。あらかじめご了承ください。